

## 松浦顧問新春講演会

1月19日 於 リーガロイヤルホテル京都

(株)高畑工作所 高畑 國正

今年も例年通り、松浦顧問による新春講演会を開催していただくことができました。第1部講演会には39名、第2部懇親会には23名が参加。私達が普段の生活の中では到底知り得ないお話を聴かせていただける貴重な機会で、とても楽しみにしておりました。

福井県ではユニクロのヒートテック製品の生産で機織り業界がとても忙しくしていることを例に挙げられていました。使う糸は髪の毛の7500分の1の太さでこれを織る技術は世界中で福井県にしかない。この地の湿度がそれに適していることも重要な要素となっている。それが決して新しい技術ではないこと。デジカメの非球面レンズを作る技術もデジタル的なものではない。アナログ的な技術と、その土地にしかない自然、文化を合わせたものづくりが必要だ。そして私達も京都にしかできないものが何かないか、自分の周りでそういうものがないか探してみてもどうかと強調されておられました。



また、これからのトップのあるべき姿について語っていただきました。今は想像もつかない猛烈なスピードで技術革新が進んでいる。情報はトップにしかない。出合いを大切にし、自分流のネットワークを築くことが重要である。トップが自ら出向いてコミュニケーションをとることが必要だ。そのためには完璧な英語をマスターしなければならない。電話1本で出向いて交渉できるトップが必要になる。それが無理ならそういう後継者を育てる。人材育成に金と

手間を惜しんではいけない。こういった内容でしたが、この他に、日本語しかできないと割り切るなら日本で勝負するしかない、グローバル以前にまず日本を知っているかということも重要、というお話しが印象的でした。

今回の講演ではこれまでと違い、私達にとってとても勇気づけられる内容だったという感想も多く聞かれました。最先端に行くのは最新の技術とは限らない、今一度自分の足元を見つめなおしてみてもどうか、そんなメッセージが強く込められた講演であったと私は感じました。

懇親会では会員各社の近況報告などお聞かせいただきました。アジア全体でグローバル化していく市場を相手にするには、信用社会が当たり前の日本の感覚では危険であり、文化も考え方も違う人を相手にするという認識と覚悟が必要だと教えていただきました。

松浦顧問におかれましてはたいへんお忙しくされているところを私達のためにお越しいただき、厚く御礼申し上げます。いつも私達のことをお気遣いいただき、感謝致しております。

この度は誠にありがとうございました。

